



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III, V 】
2 実施対象者	茨城町立青葉中学校 全校生徒320名 教職員, 保護者, 地域の方40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 1 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育推進事業 講演会) 3 その他 () (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック精神に則り, スポーツに対する興味・関心を高め, スポーツをより多くの人と交流しながら楽しむ心の育成を図る。 ○グローバル化された社会において, 多様な人権を互いに尊重し合い, 共に力を合わせて生活する共生社会を築く人材を育成する。
5 取組内容	<p>○事前学習 11/19(日) 茨城町人権啓発講演会：中央公民館ホール 演題 障がい者スポーツと人権 ～パラリンピックを体験しよう～ 講師 (公財) 県サッカー協会 インクルーシブ委員長 加藤 貴之先生</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="width: 60%;"> <p>ブラインドサッカーの実践 サッカー部14名が参加 事前に学校での事業で, リーダー役を努める生徒たちに経験させて, この事業の意義や講師の先生との打合せを行う。 (茨城町主催 社会福祉課長洲様)</p> </div> </div> <p>○オリンピック,パラリンピック教育推進事業 12/1(金) 13:30 講演 サッカーならどんな障害も乗り越えられる 講師 日本デフサッカー代表 仲井 健人選手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ今のような障害を持ったのか。(先天性) ・聴覚障害によって起こりうる困難や悩み。(集団での会話) ・何がきっかけでサッカーを始めるようになったのか。 ・デフサッカーとの出会い ・健聴者とデフサッカーをやる上で,両者の違いに気付く。 ・目標に向かった取り組み “デフサッカーW杯優勝” <div style="text-align: right;">  </div>

体験 「障がい者サッカーについて」

講師 (公財) 県サッカー協会 インクルーシブ委員長 加藤 貴之先生

- ・インクルーシブの考え (共生社会の考え)
- ・7種類の障害者サッカー
「ブラインドサッカー (視覚障がい)」
「アンプティサッカー (切断障がい)」



6 主な成果

実施後の生徒の感想より

- 1年女子 デフリンピック日本代表の仲井健人選手は、聴覚障害者です。今までつらかったことや楽しかったこと、うれしかったことをたくさん話してくれました。(中略) 私は健常者も障害者も同じ人であり、誰もが楽しく生活できる社会ができればいいと思います。
- 2年女子 私は障害者に対する考え方が大きく変わりました。切断障害を持った選手がプレーするアンプティサッカーを体験しました。(中略) 健常者と障害者の垣根が無くなるといいな。そのために私たち健常者が、障害を持つ一人一人の気持ちを理解することが必要だなと思います。
- 3年男子 (前略) ブラインドサッカーを体験してとてもこわかったです。目が見えないってこんなにもつらいんだと実感しました。この講演で障害者との関わり方、夢を追い続けることのたいせつさを学ぶことができました。

※全員の生徒が前向きな感想を書いてくれました。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- 町主催で人権啓発講演会があり、偶然ではあったが講師が同じということで、町社会福祉課と連携して事業に参加することができた。事前にサッカー部の生徒が経験できたので、体験学習がスムーズにでき、生徒主体の活動を実施することができた。
- サッカー協会を通じて筑波大サッカー部出身の仲井健人選手を紹介していただいた。やはり日本代表選手の言葉には実感が込められ、生徒の興味関心を高める絶大な効果があった。

8 主な課題等

- 講師の先生との打合せ
お忙しい先生方であり、聴覚障害ということですのですべてメールで打合せを行った。初めての事業だったので互いに何を生徒に伝えるのか確認することに手間取った。体験にしても道具の制約があり、多くの生徒が体験できる環境を整えたい。

9 来年度以降の実施予定

- 次年度は 人権集会を学期に一度実施して 共生社会からいじめの無い学校づくりを生徒会中心に実施する。スポーツについてはフットサル用のサッカーボールを購入できたので、屋内で気軽にできる運動を通してスポーツに対する興味・関心や楽しむ心の育成を図っていきたい。